

情勢報告（平成 29 年 3 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

チョロギでステップアップ！！ ～伊勢川営農組合で研修会開催～



熱心にチョロギ栽培を学ぶ組合員

2月16日、伊勢川営農組合(土佐町)が公民館で、29年度の栽培にむけ、チョロギ栽培研修会を開催し8人が参加しました。

普及所からは、昨年度の栽培実績をふまえて、栽培管理や病害虫防除等について説明しました。3月26日の植付に向けて、土づくりの準備を行うこととなりました。参加者から「シソや直販野菜等の栽培についても勉強したい」と要望があり、営農組合の直販・加工部会で直販野菜等についての栽培研修会を4月に開催する予定です。

今後も普及所は、集落営農組織の収益向上にむけた活動支援を行っていきます。

品質向上を目指して －JAハウレンソウ部会目慣らし会－



目慣らし会の様子

JA土佐れいほくハウレンソウ部会は2月17日に、目慣らし会を大豊町の栽培ハウスで開催し、生産者7人が参加しました。

普及所からは、晴天日の日中の換気や適期収穫等春の栽培管理について指導しました。また、簡易収穫機を使用した収穫作業の省力化の事例について説明しました。

参加者からは、「春は収穫が遅れると出蕾するようになるので、適期収穫は大事」という声がありました。

普及所では、今後の栽培管理や他産地での取組事例報告等を行い、産地の維持を図っています。

農業の主役は女性です！ －嶺北地域農村女性リーダー研修会の開催－



pH、ECの分析は意外と簡単です

2月17日に、嶺北地域農村女性リーダーは、「土づくりの大切さと施肥について」をテーマに、普及所で研修会を開催し、7人が参加しました。

普及所からは、夏秋作での冬期の土づくりや施肥の基礎について説明しました。また、参加者が持参した土で、pHとECを測定する実習を行いました。

農家からは、「土づくりを見直すきっかけになった」「堆肥の施用効果や施肥計算の仕方が解った」「今後も農業について勉強したい」などの意見がありました。

普及所は、今後も女性農業者の研修の場づくりと農村女性リーダーの自主的な活動支援を行っていきます。

有機農産物の有利販売に向けて
～「大豊とまと」が流通・販売調査を実施～



有機農産物の販売状況聞き取るメンバー

大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」は、2月22日と23日に大阪・兵庫で開催された展示商談会への参加と有機農産物販売店2店舗の調査を行いました。調査には、農家4人が参加しました。今回の調査にあたって普及所は、県大阪事務所担当者と連携し、調査店舗との日程調整等を支援しました。農家からは「訪問した1店舗では、夏場にトマトの入荷先がなく産地を探している状況だったので、今後組織内で販売を検討していきたい」等の声がありました。今後、組織内で今回の報告会も予定されており、普及所では引き続き有機トマトの有利販売にむけ支援していきます。

第2回嶺北地区農業改良普及推進協議会を開催
～普及活動実績や地域課題解決について意見交換～



活動成果に聞き入る委員さん

2月22日、農家代表者とJA、町村関係機関など18人が参加し、今年度2回目の「普及推進協議会」を普及所で開きました。会では、普及指導計画の総合及び個別課題、環境保全型農業の取組実績について説明し、更に来年度の計画についても情報提供し、協議会委員8人から意見を伺いました。委員からは、れいほく版ISOの取組やトゲなしユズの導入計画、米の生産調整に係る有望品目の提案などについて、質問や要望が出ました。普及所は、委員からの意見を参考にし、来年度の普及計画作成及び普及活動に生かしていきます。

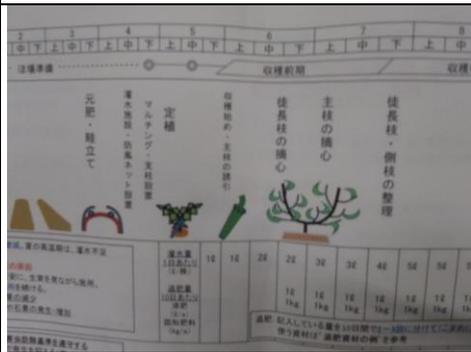
集落営農組織と公社が合同視察研修を行いました



「農業組合法人ひらの」で熱心に話を聞く参加者

2月23日、本山町が集落営農研修会を開催し、町内の集落営農組織と本山町農業公社、関係機関の職員など16人が、四万十町の「営農支援センター四万十(株)」と「農事組合法人ひらの」に視察研修に行きました。本山町では今年、町内の集落営農組織と農業公社が交流会や合同研修会を開催するなど連携を深めています。普及所は、視察先の選定や研修の内容について支援を行いました。参加した生産者からは、「直払の活用や担い手の育成手法が勉強になった。今後もこのような合同研修等による交流を継続していきたい」との声が聞かれました。普及所は、これからも農地を守る仕組みを構築するための活動を支援していきます。

シシトウを栽培してみませんか ―シシトウ新規栽培者講習会の開催―



作業の流れが分かるようスケジュール表を提示

2月27日、JA土佐れいほくシシトウ部会は、シシトウの新規栽培希望者を対象に、大豊町農工センターと普及所の2箇所で講習会を開催し、3人が参加しました。

普及所からは、露地栽培での基本的な栽培管理や売上などについて説明しました。参加者からは「主枝の仕立て方はどのようにするのか」「排水が悪い所での畝立て方法を詳しく教えて欲しい」などといった質問が出ました。

普及所は、今後もシシトウの新規栽培者の確保と栽培技術の向上に取り組みます。

サンショウ栽培はまずここから ―サンショウ接木講習会の開催―



接ぎ木は慣れることが大切

2月27日、本山町漢方・薬草生産者連絡協議会は、サンショウの生産拡大を図ることを目的に、大石地区で接木講習会を開催しました。普及所は本山町役場と講習内容を協議し、農家へ分かりやすく周知するため、果樹試験場に講師の派遣を依頼しました。

講習会に2人の農家が参加し、講師から接木方法について説明を受け、実際に接ぎ木も行いました。農家からは、「穂木の切り方のコツをもう少し見たい」など要望が出て、接木作業のポイントを熱心に聞いていました。

普及所は、今後もサンショウの栽培振興と安定出荷を目指し、地域の農家を支援していきます。

れいほく地域の園芸振興に取り組みます ―JA土佐れいほく園芸部総会開催―



園芸部総会の様子

JA土佐れいほく園芸部は2月28日に通常総会を開催し、部会員41人が出席しました。

総会前には「園芸技術向上シンポジウム」が行われ、農業技術センターから「れいほく地域の雨よけ栽培ほ場における養分蓄積実態と施肥改善」について講演があり、塩類集積対策について研修しました。

総会では、平成28年度事業実績や平成29年度事業計画や販売目標等が承認されました。普及所からは、土壌溶液分析、農業担い手サミット、農作業安全等について説明をしました。農家からは、分析の方法などについて質問や意見が出ました。

普及所では、JA園芸部の目標達成に向け、活動を支援していきます。

ブランド米「土佐天空の郷」個人面談実施



1人ずつ今年の成績と次年の作付計画について面談

3月1日・3日の2日間、本山町特産品ブランド化推進協議会は、次作にむけた個人面談を本山町農業公社で行いました。面談した役員からは、販促活動や田んぼアートなどの行事への参加依頼や協議会に対する意見を確認しました。

普及所からは、今年度の玄米品質等の成績評価について説明し、次作の栽培計画作成について指導しました。また、生産者の除草対策や土壌改良資材についての質問に対し、具体的な解決策を提案しました。

普及所は、これからも水稻の一等米比率の向上を目指し、高品質安定栽培技術の指導を徹底していきます。

平成29年も元気に活動します ～嶺北地域農村女性リーダー総会開催～



女性リーダー総会の様子

3月3日、普及所で嶺北地域農村女性リーダー交流会及び総会を開催し、12人が参加しました。

交流会では、おひな様にあわせた昼食を楽しみ、レクリエーションを交えながら会員同士の交流を深めました。総会では、28年度の活動実績の報告と29年度の活動計画について協議を行い、29年度は地域内の農村女性リーダーを訪問することになりました。また、新たなリーダー推薦にむけて引き続き、声かけを行うこととなりました。普及所からは、「全国農業担い手サミット in こうち」「女性農力向上支援事業」等についての情報提供を行いました。

今後も普及所は、農村女性リーダーの自主的活動を積極的に支援していきます。

本山町の担い手を育てよう！！



担い手の育成について協議

本山町では今年基幹品目の水稻・露地野菜、畜産で20歳代数名が就農し、新たな担い手として期待されていますが、まだまだ担い手が不足しています。本山町担い手育成総合支援協議会（以下、担い手協議会）は、毎月担い手の確保・育成について検討しています。

3月9日、役場で開催された担い手協議会では、園芸品目の担い手確保対策について協議しました。米ナス、花きでは部会が産地提案書を活用した受入体制整備に取り組んでおり、普及所は受入農家の検討や提案書作成について助言してきました。当日の担い手協議会では、新たに作成された米ナスと花きの2つの提案書を承認することができました。

今後も担い手協議会では、他の品目についても生産者や部会に体制づくりを働きかけ、担い手を確保・育成していきます。

ユズのせん定講習会を開催 ～省力・高品質生産にむけて～



せん定のポイントを学ぶ参加者

3月1日～13日にかけて大豊町、土佐町など管内5カ所の園地でせん定講習会を行い、延べ60人の生産者が参加しました。

今回のテーマは、省力・高品質生産にむけた樹づくりで、幼木の仕立て方法から成木の樹形改造まで、目的と具体的な手順を説明しながら実技指導を行いました。「それほど低樹高にしたら収量が落ちるのでは？」といった声がある一方で、「作業がしやすく、防除も簡単にできる」といった声もあり、今後の栽培方法を検討する良い機会になりました。

普及所は、高齢化が進むなか、価格の安い酢玉生産の産地から、所得確保が可能な生産への転換を図るため、これからも生産者とともに取り組んでいきます。

米ナスの天敵利用による生産安定 － J A米ナス部会作付け検討会－



バンカーシートを見入る生産者

J A土佐れいほく米ナス部会は、3月13日に作付け検討会を本山町農業公社で開催し、生産者9人が参加しました。

普及所は、次作でのバンカーシートを使った苗への放飼による天敵の早期定着実証について説明しました。また、定植前後の栽培管理についても指導しました。参加者からは、アザミウマ類の天敵であるスワルスキーカブリダニが苗に定着することにより、栽培早期からの天敵活用を期待する声がありました。

普及所では、効率的な技術の検討や適正な栽培管理の徹底により、米ナスの生産安定を図っていきます。